## 1 令和2年度 重点目標の取組状況及び評価について

重点目標 組 況 達成状況 価 運営方針1 《令和2年度入学試験実施状況と合格者数》 《推薦 一般入試》 活気あふれる学園づくり 【自己評価】 (1) 推薦入試と一般入試 ) 内は女子 「推薦入試] 実施日 受験者数 合格者数 【数値目標】 1 目標を完全に達成 推薦入試合格者の数学の平均点 推薦入試 33名(2名) 31名(2名) 基礎学力を備えた入学 10/27が60点以上となり、基礎学力 一般入試 生60名の確保 7名(1名) 6名(1名) 2 目標をほぼ達成 のある学生が確保できた (80%以上) 計 40名(3名) 37名(3名) ・農業系、県立普通科の学生は 前年同期 44名(11名) 43名(11名) ほぼ前年並みとなった。 (3) 目標を未達成 ※県内農業系学科からの受験者24名(前年比-1名,60.0%)  $(5.0 \sim 8.0\%)$ 「一般入試 県立普通科5名(前年比-3)、県立他学科1名(前年比0) 4 目標を著しく未達成 ・受験者数は前年並みであった 私立・定通8名(前年比+1)、 県外高校1名(前年比-2)、 (50%以下) が、農業系高校の受検者が増加 過年度生2名(前年比+2) した。 (2) 過去5年間の受験者数と入学者数 \*R3 受験者数は推・一、入学者数は合格者数 年度 H30 R2 H29 H31 R3受験者数 58名 60名 39名 44名 40名 入学者数 53名 58名 36名 41名 (3) 二次募集を実施 試験日 令和3年3月9日 【委員評価】 1 高校の進路選択および高校生への積極的な働きかけ 《高校の進路選択への積極的な働 高校訪問 きかけ》 1 目標を完全に達成 ・ 高校訪問は、過去10年間に本 対象校:公立34校・私立11校 計45校 実施回数:のべ訪問回数 86回 校への入学者がいた高校を中心 2 目標をほぼ達成 に訪問を行った 県内高校3年生に農大紹介リーフレット配布、学校・受験案内、 (80%以上) 進路ガイダンス要請、オープンキャンパス案内 等 ②遠隔システムを活用して農業系高校の1、2年担当教員へ農大紹介 目標を未達成 ・遠隔システムを活用し、農業系 (3) $(50 \sim 80\%)$ 参加者数 1年担任等 23名 2年担任等 23名 高校の1年担任と2年担任に本校 ③農業系高校校長会で農大の進路内容等について説明 の紹介を行った。 4 目標を著しく未達成 ・ 進路ガイダンスはコロナ禍の影 ④ 進路ガイダンス及び学校説明 (50%以下) 公立5校5回、私立1校1回、 地区1回 計 7回実施 響により実施回数が減少したた め、参加回数が減少した。 ⑤オープンキャンパス「緑の学園への開催 生徒:第1回目(6/20)34名(昨年40名) オープンキャンパスの実施は、 新型コロナウイルス感染対策と 第2回目(8/2)46名(昨年40名) して、時間短縮、学生の参加無 計80名(昨年80名) しでの開催としたが、参加者は ※内3年生参加者数 34名(昨年46名) 前年並みであった。 保護者・教員:第1回20名、第2回20名

計40名	(昨年42名)
総計120名	3 (昨年122名)

- 2 情報発信の取組
- (1) 「先輩から後輩へのメッセージ」7月に14校に配布
- (2) フェイスブックやパブリシティなどによる情報発信
  - ・FB 本年度記事数110件(前年同期76%)フォロワー数773人(前年同期111%)
  - 新聞掲載 4件
  - ・農業大学校 HP (4~12月)

アクセス件数 15,604件(前年同期114%) ページ訪問数 9,805件(前年同期113%)

(3) 市町村、JA、JR等への募集ポスター掲示等依頼 県内18市町村役場、JA83本・支所

計506枚配布

- (4) OPAでの実習販売の実施(農大紹介ポスター等掲示)
- (5)全市町村に市報へオープンキャンパス開催記事の掲載依頼 豊後大野市、佐伯市、中津市にて掲載
- 3 高大連携の促進
- (1) 高校への出前農大の実施
  - ①三重総合高校との連携
    - 農大での実習 1年6日、2年4日
    - ・三重総での授業 2年5日
  - ②久住高原農業高校との連携

※三重総合高校から遠隔授業を配信 5回

- ③大分東高校との連携 本校からスタジオ型遠隔授業により配信 5回
- (2) 農業系高校1年生体験研修の実施 農業系高校1年生農大体験研修9校11学科
- (3) 「くじゅうアグリ創生塾」との連携
  - 先進技術体験研修 1 回
- (4) 三重総合高校の JGAP 取得のための農場演習を農大ほ場で実施した

3年生の参加が減少した。

- ・メッセージ等は予定通り作成し、配付した。
- ・フェイスブックは行事の縮小等 により記事数は減少したが、フ ォロワー数は増加。

・新たに市報への記事を依頼し広 くオープンキャンパスへの参加を 呼びかけた。

## 《高大連携》

- ・三重総合高校との連携について は関係者で協議し、実施内容の 見直しを行った。
- ・県下9校の農業系高校と同時配信を行い、学生と生徒、指導教員同士での意見交換を予定
- ・農業系高校1年生の農大体験研 修では、国東高校が1学科増え たことにより9校11学科の生 徒が来校した。

重点目標	取 組 状 況	達 成 状 況	評価
運営方針2 質の高い教育の提供 【数値目標】 ・日本農業技術検定3級 相当の専門知識習得者 80%以上 ・在学中に5個以上の資 格取得者80%以上	1. 農業技術検定3級以上取得率 (1) 令和2年度取得者数 3級 21名 2級 4名 3級以上取得率 令和元年卒業生 73.7% 令和2年卒(現2) 64.5% 令和3年卒(現1) 68.3%  2. 在学中に5個以上の資格取得者80%以上 (1) 本校で取得した免許資格等(農業機械研修を除く)	・日本農業技術検定3級以上取得者は66.7%(48名/72名)であった。 ・コロナ禍の影響で農業技術検定の実施回数が1回になったが、受験した学生の合格率は88%であった	【自己評価】  1 目標を完全に達成
	資格       取得者         全経第記能力検定 3級       3名         情報処理 3級       15名         情報処理 準2級       5名         情報処理 初段       1名         フラワー装飾技能検定2級       名         フラワー装飾技能検定3級       1名         家畜商       2名         家畜内工授精師       2名         農業技術検定 2級       4名         農業技術検定 3級       21名         農業技術検定 3級       21名         農業機械と合わせた資格5個以上取得者       17名         取得率 54.8%	となった。	(50%以下)
	1 プロジェクト研究の高度化と地域課題への対応 (1)農林水産研究指導センター・振興局との連携プロジェクトの5・5/29 に農業研究指導センター農業研究部との連携会を開催し、ジェクト課題の設定につなげた。また、計画検討会、中間検討会等で研究員や広域普及指導員を含	1年生: 連携課題17課題 ・2年生: 連携課題26課題 連携課題74%(43/58)	4 目標を著しく未達成 (50%以下)

った。

- (2) 令和元年度 九州農業大学校等プロジェクト・意見発表会出場 リモート開催
  - プロジェクト発表の部

「タイマー式給卸器による夜間追加給与が昼間分娩率に及ぼす影響について」 総合畜産科 2年女子

「水稲における裏作の選定と収益性の比較」

総合農産科 2年男子

- ・意見発表の部 「祖父の思いを受け継ぎ、水耕みつばの生産者に」 総合畜産科1年男子
- (3) 令和2年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会 動画審査 「タイマー式給餌器による夜間追加給与が昼間分娩率に及ぼす影響について」 総合畜産科 2年 女子
- 2 農業法人等の期待に応えられる学生の育成
- (1) 「総合経営特別講座」の実施
  - ・講座:企業経営論、アグリビジネス論、消費者ニーズとマーケッティング、農業簿記、農業経営分析、農村社会学、
- (2) 大分大学との学生間の連携 大分大学の学生と意見交換等を行った。
- (3) 講義内容の充実・強化 研究講義を実施し、講義方法等の充実を図った。 教育庁が実施する教育研修に2名の指導員が参加した。
- (4) 各種資格取得の推進 土壌医検定、簿記検定取得のための特別講義を実施した。
- (5) GAP手法の習得とグローバルGAP認証に向けた学習の実施 野菜クラスと果樹コースにおいてグローバルGAP認証のためのコンサルを行い、認証審査を受けた。

・プロジェクト課題1課題が全国大会へ出場し、特別賞受賞

- ・2年生4名が受講した。
- ・全国規模の集合研修が中止となり、オンライン研修を受講した
- ・6月11日農大にて大分大学生が実習。
- ・7月13日大分大学にて農大生が就農ビジョン発表、意見交換。
- ・公開講座: 7回(うち農業法人4 社)

•

- ・グローバル GAP コンサルを 5回 開催
- ・11月10、11日に学生3名を

	中心に、グローバル GAP 認証の 審査を受け、12月5日に認証 取得 ・GAP 公開講座:7回(うち農業 法人4社)	
(6) 販売実習によるマーケティング 大分 OPA (初) や県庁、各振興局等で販売実習を行った (7) スマート農業の実践 スマート農業実証事業にとりくむ農業法人(竹田市)において、現 地研修を2回実施した。		
3 その他、学生の資質向上に向けた取り組み結果 (1) 懸賞作文への応募	・毎日農業記録賞 地区入賞 2年男子 1名	
<ul><li>(2) フラワーデザインコンテストへの参加</li><li>・フラワーデザインコンテストに出品し、優秀な成績を収めた。</li></ul>	・第12回めじろんカップ 大分合同新聞社賞 2年男子	

重点目標	取 組 状 況	達 成 状 況	評 価
運営方針3 新規就農者の確保	1 農学部 (1)進路状況 ①進路内定状況(令和3年1月末現在)	・全学生・研修生の進路決定率は 98%の見込み ・就農率は75%見込み	【自己評価】
【数値目標】 全学生・研修生の進路 決定率100%	対象者     進路 内定     うち就農 自営     その他 法人     内定率     就農率	【農学部】	1 目標を完全に達成 ② 目標をほぼ達成
就農率80%以上	学生 32 31 6 17 1 7 96.9% 75%	· 進路内定見込み 96.9%	(80%以上)
	②農学部過去5年間の就農率(%)	・就農率 75.0%	3 目標を未達成
	年度 H27 H28 H29 H30 R1		(50~80%) 4 目標を著しく未達成
	就農人数 42 39 32 31 39	・就農及び農業関連企業就職者合計	
	就農率 76.4 79.6 71.1 60.8 69.6	29名 90.6%	(50%以下)
	(2) 就職支援及び進路先の開拓 ①進路コーディネーターによる農業法人との連覧館化		
	・2年生対象:5月進路面談		
	<ul> <li>1年生対象: 12月進路面談、2月保護者面談</li> </ul>		
	②農業法人との就職情談会		
	開催日:令和2年5月20日、21日、22日、25日、28日		
	参加法人:38団体を1日5社から10社に分けて面談を実施		【壬巳志/元】
	③インターンシップの促進		【委員評価】
	・法人が実施するインターンシップへのべ46名参加		1 目標を完全に達成
	2 研修部 (1) 進路状況(令和2年1月末現在)		② 目標をほぼ達成 (80%以上)
	対象者     進路 内定     うち就農 自営     他 産業     内定率     就農率 (%)       就農準     21     16     8     5     3     16     0     76     2     76     2	<ul><li>・進路内定見込み 100%、</li><li>・就農見込 86%</li></ul>	3 目標を未達成 (50~80%)
		   • 1 日末時占の准敗内完 <del>支</del> /+ 16	, , , ,
	(2)振興局・関係団体との連携会の開催 (7回) ・4/10 7/10 7/27 8/4 8/16 2/4 2/14 (3)法人等農家研修 (延べ40名参加) ・農家研修 (8/24~9/4:前期8農家、10名研修) (1/18~2/2:後期14農家、17名研修) ・大分市ファーマース・スクール、臼杵市アク・リ起業学校視察(7/27、15名参加) ・豊後大野市インキュヘ・・ションファーム、荻町エコファーム視察 (8/4、18名参加)	・1月末時点の進路内定者は16 名おり、残る5名のうち1名 は病気による退校者である が、残り4名は就農活動に向 けた支援を継続しており、3 月末までには全員の進路が内 定する見込である。	4 目標を著しく未達成 (50%以下)

(4) 農業法人との就職相談会

- ・5/20 農業法人就職相談会(農大、5名参加)
- ・8/16 おおいた就農応援フェア・相談会(大分市、4名参加)
- •6/18 豊後大野市就農相談会(2名参加)
- 10/28 佐伯市就農相談会(1 名参加)
- ・11/3 豊後大野市インキュベーションファームとの面談 (1名参加)
- ・12/18 臼杵市アグリ企業学校との面談(1名参加)
- 12/25 竹田市ファーマーズスクールとの面談 (1名参加)
- 2/14 農業法人等合同就職説明会(4名参加予定)

## (5) インターンシップ等による就農体験

- ・研修生派遣カ所 10組織 派遣延べ日数26日、17名参加
- (6) 各種免許、資格等取得促進による就農支援 令和元年度農業大学校学生・就農準備研修生免許資格等取得状況

免許・資格等種類	学生	研修生	計
①大型特殊免許(農耕車限定)	37名	17名	54名
②けん引免許(同上)	34名	8名	42名
③フォークリフト運転技能講習	25名	9名	34名
④アーク溶接作業特別	13名	3名	16名
⑤ガス溶接技能講習	11名	0名	11名
⑥ボイラー取扱技能講習	6名	8名	14名
⑦車両系建設機械運転技能講習	14名	0名	14名
⑧小型車輌系建設機械特別教育	5名	10名	15名
⑨土壤医検定試験	41名	8名	49名

注)⑧、⑨は受験予定者数であり結果は後日発表

・1月末時点での内定者 16 名は 全て就農者。内訳は自営予定者 が8名、法人就農予定者が5名、 ファーマーズスクール研修予 定者が3名いる。最終的な就農 率を86%程度と見込んでいる。